

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.20 温故知新で持続可能な社会を考える！炭焼き体験
---------	------------------------------

学校名	いの町立吾北中学校
学年	中学 2 年生
生徒数	10 名
実施場所	吾北中学校（事前学習）、柳野地区（炭焼き場所）
目標	吾北の自然（山と川と人との関係）について学び、自然のもたらす恩恵のために、人たちがどのように関わっているかについて考える。 吾北の自然を守るために、どのような仕事があるかについて知り、職業選択の幅を広げる。
実施教科	総合学習の時間
関連教科	
持ち物	ジャージ、軍手、タオル、マスク

実施項目	炭焼き体験
対象プログラム	No.20 温故知新で持続可能な社会を考える！炭焼き体験
所要時間	事前学習 10 分程度 体験実習 2 時間 10 分
実施内容	・事前学習 吾北中学校の教室にて 10 分程度の事前学習をした。炭焼き体験の講師から事前に FAX してもらった資料を担当が読み上げ、説明した。服装、持ち物、タイムスケジュールなどを確認した。 ・講師からの説明 講師から挨拶の後、柳野地区や高知県の山・森の現状、竹林や竹の利用と炭焼き体験の作業手順について 20 分程度の説明を受けた。 ・炭焼き体験 作業時間は 2 回の休憩をはさみ、1 時間半程度行った。今回の体験学習は、竹の伐採から竹炭ができるまでのいくつかの工程の内、竹を窯の中に並べて入れる「窯入れ」の作業であった。体験学習用に 130cm～170cm に切断された約 100 本の竹が用意されていた。通常は、竹林で伐採切断後に、直接窯入れすること。生徒らは窯の中に入り竹を隙間なく並べて立てていくグループと竹をリレー形式で運び入れるグループに分かれ作業を行った。ドーム状の天井との間に隙間なく竹を並べていくため、講師の指示で天井の高さにあった竹を選び並べ立てていった。隙間ができた場所には細い竹や 30cm ほどに切り分けた竹の断片などを詰めていった。また、立てる竹の上の面は根元側（元と呼んでいる）で、窯に入れる際に根

元側が先になるようにして、窯の入り口の地面に置いた板に竹を滑らせていれることなどが搬入作業のポイントであった。竹は泥水がついており、すべりやすく、服は泥まみれになった。窯の中は熱がこもり、生徒らは汗をかきながら竹を並べていた。おおむね窯の入り口まで竹を並べて作業が終了。代表生徒によるお礼の挨拶で終わった。

・振り返り

学校に帰ってからは体験学習の内容や感想をワークシートに記入すること。

実施風景



補足
その他、プログラムの
特徴

- ・ 吾北中学校では、総合的な学習の時間を利用した山の学習プログラムとして、目的、狙う目標（学習を通しての成果）が具体的に練られ、1年生から3年生までのプログラムメニューが植林、間伐体験など充実して組み立てられている。
- ・ 林業体験など、体験学習の指導にいの町役場森林政策課が関わっていることや地域コーディネーターの協力によりプログラムを実施していることなどが充実した内容になっている。
- ・ 学年で異なる体験プログラムが組まれているので、毎年同じメニューで実施できる。
- ・ 生徒らが住む地域の自然や森林を通したこのプログラムは、他の教育科目では実施できない、生徒らの記憶に残り、今後につながる体験学習である。